

第1学年2組 学級活動学習指導案

授業Ⅲ 1年2組教室

指導者 教諭 山田 浩和

1 題材 あんぜんなひなん①（じしんのとき）

2 題材について

児童は、東日本大震災当時、まだ自宅や保育所にいて保護者や職員によって命を守られていた。しかし、入学時の調査で、震災以降、地震に敏感になったり、泣いたりする姿も見られ、また、避難所や仮設での生活を余儀なくされ、まだ幼いながら制限のある生活をしてきた児童もいた。今は、入学して2ヶ月が過ぎ、学校生活にも慣れ、元気に過ごしている。5月に行われた避難訓練では、児童用机が並んでいる教室で初めての行動だった。そのため、一次避難（机の下にもぐる動き）では、机から頭が出ていたり、机の脚を持たなかったりして、避難の仕方もまだ分からなかった。また、二次避難（校庭に移動する動き）では、学校の約束である「お・は・し」を守れず、並ぶために押し合ったり、おしゃべりをしたり、笑顔で並んだりしていた。

本題材は、学習指導要領・学級活動の内容の共通事項「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全、(カ) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」から設定した。日本は、地震や台風、大雨等自然災害が多い。特に、阪神大震災や東日本大震災を経験し、防災に対する意識が高まっている。いつ、どこで起きるか分からない地震への恐れだけでなく、いかに自分自身の大切な命を守るかをこれから身に付けていくことが大切になる。学校において、地震が起こるとどのような状況になるかを考え、安全な場所を選択したり、安全な姿勢を身に付けたりさせていきたい。

本題材では、大きな地震が起きたら、教室はどのような状態になるかを想像させる。物が倒れたり、落ちてきたり、動いてくることを話し合い、安全な場所は、「机の下」であることを理解させたい。さらに、机が倒れないように机の脚を持つことや頭部を机の下に入れることも伝えたい。また、教室だけでなく、自分が生活科ルームや中庭にいた時はどのような状況になるか、近くに机がない場所ではどんな体勢がよいか、また避難する時の態度を話し合うことで、防災に対する意識を育てていきたい。ただ、地震に対する恐怖心を過剰に抱かせないように配慮したい。

3 1学年の防災教育の目標

(1) 総括目標

- ・ 災害発生時には、教師や大人の指示に従うなど、適切な行動ができるようにする。
- ・ 生きることを喜ぶとともに、進んで家の手伝いをする等、家族の役に立つことができるようにする。
- ・ 地域の災害に関心を持ち、地震や津波などへの備えが大切であることが分かるようにする。

(2) 観点別目標

【知識・理解】 発生時の危険な場所を認知すると共に、地域の避難所や避難場所を知る。

【技能】 発生時には、教師や保護者の指示に従い、適切に行動することができる。

【公共・社会性】 基本的な生活習慣を身に付け、生命を大切にすることをもち、他と協調することができる。

4 校内研究との関連

「危ない」というキーワードから、児童が考える危険を挙げさせ、その中から「地震」について焦点化（しぼる）する。続いて、教室の拡大図を使い、地震が起きた時の状態を視覚化（みえる）させることで危険を想像させる。また、教室や生活科ルームでの避難を通して、児童の意識を高め、共有化（ひろげる）を図りたい。

5 学習計画 3時間扱い（本時1／3）

時	題 材	活 動 内 容
事前	ひなんするところ（学校行事） 「お・は・し」のやくそく	避難経路の知り、避難の時には「押さない・走らない・しゃべらない」を守ることを確認する。
1 本時	あんぜんなひなん①（じしんのとき）	教室や他の場所で地震が起きたときの安全な避難の仕方や安全な姿勢の取り方を身に付ける。
事後	地震・津波避難（学校行事）	「お・は・し」の約束を守って、素早く行動することができる。また、大津波警報が発令された時の校舎への避難の仕方を練習する。
2	なつ休みのすごし方 （たいふうやかみなり）	地震以外の自然災害を知り、危険な状況を理解して、安全な行動をとることができる。
3	あんぜんなひなん②（学校にくるとき、かえるとき、いえにいるとき）	登下校時や家にいる時に地震が起きた時にどう行動すればよいかを考え、家庭で話し合うようにする。

6 評価規準と本題材が目指す児童の姿

観 点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
評価規準	学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち、進んで集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団の一員としての役割を自覚し、集団活動や自己の生活の充実と向上について、考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義や集団としての意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活について理解している。
目指す 児童の姿	自然災害の怖さや避難の仕方について考えたり、進んで話し合ったりしている。	災害時に状況に応じた行動や避難方法を見つけたり、実際に行動に移したりしている。	自然災害の被害を知り、よりよい避難行動について理解したことを発表したり、ワークシートに記入したりしている。

7 本時の指導

（1）ねらい

- 大きな地震が起きた時に、教室や生活科ルームで予想される危険を考え、自分の身を守るためにはどのような行動をとればよいかを話し合い、安全な体勢をとることを通して、安全な避難ができるようにする。

(2) 学習過程

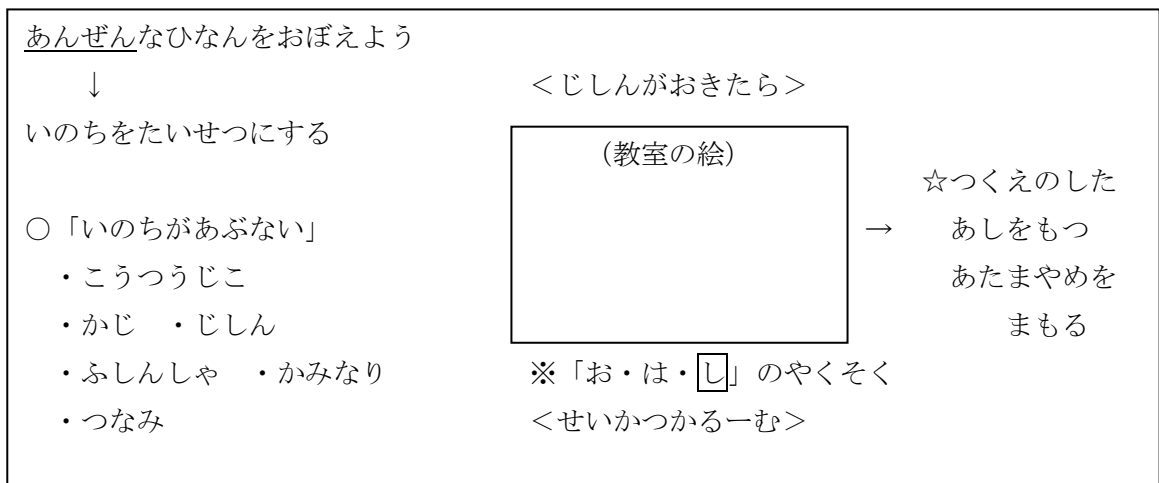
段階	学 習 活 動	指導上の留意点	目指す児童の姿 (評価方法)	資 料
導入 8分	<p>1. 自分にとって「危ない」と思うことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故 ・不審者 ・火事 ・地震 ・台風 等 <p>2. その中から「地震」が起きたときの身の守り方を学習することを学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって「危ない」と思うことを挙げさせる。 ・自然災害の中で「地震」について考えることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「危ない」と思うことを発表できたか。 (発表・観察) ・本時のねらいをつかむことができたか。 (観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・カード ・めあて
展開 ① 15分	<p>3. 教室の拡大図を使って、大きな地震が起きたことを想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビが倒れる ・給食台が動いてくる。 ・ガラスが割れる ・かべにひびができる。 <p>4. どこに避難すればよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下 ・机の足を持つ ・頭を出さない <p>5. みんなで机の下にかくれる練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お・は・し」の約束を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きた時、教室はどうなるかを想像させる。 ・テレビやガラスの絵を貼り替えて大変な状態になることをつかませる。 ・5月に実施した避難訓練を想起させる。 ・「お・は・し」の「し」を守るように話す。 ・地震が起きた時を想像して真剣に行動させるために太鼓をたたく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きた時を想像できたか。 (発表・観察) ・既習したことを想起することができたか。 (発表・観察) (行動・観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の前面の拡大図 ・倒れたものや壊れたものの絵 「お・は・し」の約束
展開 ② 15分	<p>6. 生活科ルームや中庭で遊んでいたときを考えるために生活科ルームに移動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地震」が起きた時にどのようなようになるかを想像させる。 ・どこに、どのように避難すればよいかを話し合う。 <p>7. 身をかがめて、丸くなる姿勢で「地震」が収まるまで待つことを練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に地震が起きたときの行動を考えさせるために生活科ルームに移動する。 ・生活科ルームではどのような状態になるかを想像させる。 ・机が近くにない場合は、身を丸くする姿勢を取ることがわかる。 ・実際に生活科ルームや中庭で身を守る姿勢を取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科ルームで地震が起きた時を想像することができたか。 (発表・観察) ・身を丸くする姿勢をとることができたか。 (行動・観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・身をかがめた絵

終 末 7 分	<p>8. 教室に戻り, 今日の学習で分かったことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地震」はいつ起こるか分からない。 ・「地震」が起きたら, 自分を守る行動を取る。 ・「お・は・し」の約束を守る。 ・近くの大人や教師の指示に従うこと。 <p>9. 2回目の避難訓練をすることを伝え, 学習したことを生かすことを話す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書事項をもとに本時のまとめをする。 ・「お・は・し」の「し」を守れたか確認する。 ・2回目の避難訓練をすることを伝え, 真剣に取り組むことを約束する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きたときの行動を理解できたか。 (発表・観察) ・「し」を守れたか。 (挙手) ・2回目の避難訓練で真剣に取り組むことを確かめる。 (挙手・観察)
------------------	---	---	--

(3) 評価規準

- ・ 大きな地震が起きた時に, 教室や生活科ルームで予想される状態を話し合うことで危険な場所を理解し, 自分の身を守るために安全な行動をとることができる。

(4) 板書予定



(5) 場の設定 (生活科ルーム・中庭)

